

第2章 感染症及び食中毒統計

§ 1 一類、二類、三類、四類及び五類感染症等

医療技術の進歩により、多くの感染症が克服されてきた一方で、新たな感染症の出現や既知の感染症の再興により、感染症予防に関する施策の抜本的な見直しが必要となり、平成11年4月「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が「伝染病予防法」にかわり新たに施行された。

感染症法では、発生した場合の危険性等から全112疾病について一類から五類までの5つの類型等に分け、それぞれの対応が決められている。

表 45 年次別届出数(一類、二類及び三類感染症)

平成30年								
	一類感染症	二類感染症	三類感染症					総 数
	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱	急性灰白髄炎、ジフテリア、SARS、MERS、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）（結核は別集計）	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	
平成 28 年	-	-	-	1	35	-	-	36
29 年	-	-	-	3	35	-	2	40
30 年	-	-	-	3	45	-	-	48
川 崎	-	-	-	-	10	-	-	10
幸	-	-	-	1	5	-	-	6
中 原	-	-	-	-	13	-	-	13
高 津	-	-	-	-	2	-	-	2
宮 前	-	-	-	1	7	-	-	8
多 摩	-	-	-	1	3	-	-	4
麻 生	-	-	-	-	5	-	-	5

資料: 健康安全研究所